

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470500667		
法人名	特定非営利活動法人おもしろ介護の会つくしんぼ		
事業所名	グループホームつくしんぼ		
所在地	津市片田志袋町300番地181		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligosvoCd=2470500667-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームつくしんぼは、令和3年年12月にリニューアルオープンしたグループホームです。一般住宅を改装した建物で、津市志袋団地内の住宅の一戸として建てられています。入居者の中には、志袋団地内の自宅で独り暮らしをされていた方もあり、散歩に出かけた際に自宅に立ち寄り、休憩をすることもあります。ハロウィンの時には、団地の子どもたちが「お菓子ちょうだい」と訪問してくれます。グループホームつくしんぼは、これからも志袋団地の一世帯として、団地内の皆様と親しい関係を持ちながら、歩んでいきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

津市の志袋団地は周りに竹やぶや林が広がる自然豊かな場所にあり、その中の南端の一般住宅を改装した事業所は、利用者6名という小規模でアットホームな雰囲気である。利用者一人ひとりの個性や生活様式を尊重し、決して否定をせず寄り添う介護を目指している。経験豊富な職員とお菓子作りをしたり、職員手作りのゲームに興じるなど楽しみ事が多い。また、自治会活動が熱心な地域で、事業所にも行事の参加を促す声掛けをしてくれる。今後も職員・利用者が地域の一員として地域に溶け込んで温かい関係を継続していきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、職員が見える場所に掲示している。各職員は理念を自覚して、理念に基づいて実績を行っている。	開設当初からの理念は、毎朝の申し送り時に唱和し、職員に浸透している。また、年初めに理念に絡めた簡単な目標を決めてケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は、津市志袋団地内の住宅の一戸として建てられている。昨年10月のハロウィンの時には、団地の子どもたちが訪問してくれた。隣近所とは、挨拶、施設のお話をさせて頂いている。	事業所だよりを団地の自治会の回覧に加えてもらい、つながりはうまく取れている。地域の行事に声掛けをしてもらうことはできる限り参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の中には、志袋団地内に自宅があり、散歩に出ると、馴染みの人との挨拶、自宅に立ち寄り休憩することもある。コロナ禍が過ぎ、団地の催しも再開した。団地のハロウィンなどの行事には、可能な範囲で参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が過ぎ、令和5年6月より、従来の運営推進会議を開催出来るようになった。構成員は、自治会長、民生委員、津市役所、包括支援センター、当施設職員である。家族の運営推進会議への参加方法が、課題である。	コロナ禍がほぼ収束し、従来のように運営推進会議を開催できるようになった。事業所から利用者の状況や活動報告をし、参加者との様々な意見交換の中から出たものをサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の文書の発送、介護保険更新の手続き等の際、情報交換を行っている。	運営推進会議で相談したりアドバイスをもらっている。また、介護保険の更新や生活保護受給者についての手続きで連絡することは多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護上の問題が起きた際は、職員全員で十分な事例検討を行い、『身体拘束をしないケア』を実践している。	薬の副作用で多動になり危険性があった時や寝たきりの力の強い男性利用者がベット柵を取ってしまい危険を感じた時には一時的に柵を固定したこともあったが、現在は拘束はしていない。身体拘束の弊害は理解している。	身体拘束廃止について会議等で取り上げ、職員研修も行っているが、記録を残し今後さらに整備されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月一回のミーティングで、利用者一人ひとりの事例検討を行い、虐待につながる介助をしていないか振り返っている。不適切な介助などの問題発生時は、その都度話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかはまだ分からないところもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	成年後見人がいる利用者も入居しておられ、連携をしている。契約書の締結、重要事項の説明は、面談にて行い、利用者家族、施設側双方が納得した上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、毎月、利用者の様子を報告している。利用者、家族等からの要望は、月に一度のミーティングで話し合い、次からの実践につなげている。	家族の要望にはできる限り応えるようにしている。病院嫌いで薬拒否の家族とはしっかりと話し合い、主治医の必要性を理解してもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務体制など、施設運営上の問題が起これば、職員同士で話し合い、管理者、代表者が把握したうえで、問題解決にあたっている。	長く勤めている職員が多く、気心が知れていて何でも話しやすい。代表者は頻りに事業所に立ち寄り支援状況を把握していて、職員は意見を伝えやすい環境である。グループLINEで報告や意見交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業界で人手不足が叫ばれている。当施設も人手不足が解消されず、現場スタッフの努力で、業務が成り立っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当施設を運営する法人おもしろい介護の会つくしんぼは、複合施設を運営している。同一法人が運営するもう一つのグループホーム、デイサービスとの交流・合同研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の絶対数が足りないため、法人が運営する他のグループホームとの連絡調整、事例検討・研修は行っているが、外部の研修等への参加はなかなか難しい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを理解し、要望等に応えられるよう努力・工夫している。その場で対応出来ることは、速やかに対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホーム入居という新しい環境に対する、利用者、家族の不安な気持ちを理解し、安心していただけるよう、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入居前の段階で、他の施設、医療機関が入居希望者にとってはるかに有益であると思われる場合は、その方にふさわしい施設・医療機関を紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の片付け、行事の準備、洗濯物をたたむなど、利用者と職員が共同で作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の行動制限がなくなった現在、面会、外出などは、可能な限り協力して頂くよう、家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出ると、馴染みの人と挨拶をする。当施設がある志袋団地内の自宅で暮らしていた入居者もあり、散歩の際に自宅に立ち寄り、休憩をすることもある。	コロナ禍から、訪問者は少ない。家族の面会は電話予約でいつでもできるようにしている。同系列のグループホームとの合同イベントでは馴染みの顔見知りと楽しい時を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでの共同作業、利用者同士が協力して、みかんの皮むき、お茶を袋に入れる作業、食事の準備等をして頂くなどの配慮をしている。他の利用者を気遣い、声をかける方もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院中の利用者には、職員がお見舞いに行き、家族、医療スタッフとの連携に努めている。当施設を退居された利用者に対して、退院後の生活等について家族と一緒に検討している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望、訴えを傾聴して、対応可能な事項は、速やかに対応している。その場で困難な問題は、月に一度のミーティングでは、解決すべき問題、今後の課題を検討している。	一人ひとりの思いや意向を傾聴し、決して否定しないのできる限り希望に沿うようにしている。利用者同士の関係性にも笑顔に結び付けられるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他愛のないおしゃべりから得た情報でも、職員同士で共有し、利用者の理解につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のミーティングでは、利用者全員の現状把握、解決すべき問題、今後の課題を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、現場から伝えられた情報を元に計画作成担当者がケアプラン原案を作り、現場に返して検討・修正してもらうという手順で作成している。	職員は担当制で、毎月のプランに対する評価をモニタリングに反映しカンファレンスで検討している。遠方にいる家族には電話で意見や要望を聞き介護計画に加味している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や気づき等は、申し送りなどで、全職員に伝達して介護の実践に活用している。介護サービス計画は、介護記録、ケアカンファレンスを元に支援内容を評価、検討し、介護サービス計画の修正をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設でも理容・美容の出張サービスが利用できるが、美容院を経営している姉妹にヘアカットをして欲しいと外出される利用者様もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年10月のハロウィンに、当施設がある志袋団地の子どもたちが、当施設に来てくれた。これからも、可能な限り、利用者が志袋団地の方々と触れ合う機会を作っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が、定期的な病院受診、訪問診療を受けている。利用者各自に主治医があり、一人ひとりの健康状態について、的確な助言を頂いている。	利用者一人ひとりにかかりつけ医があり、定期的に病院受診、訪問診療を受けている。歯科医師の訪問治療もある。受診結果は家族に報告し、介護サマリーを常に更新している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員は勤務していない。利用者の健康状態については、利用者一人ひとりの主治医と細かく連絡を取り、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に入院されている利用者に対しては、入院先の医療機関との連携を密にして、退院後の生活等について、病院関係者と情報交換を行い、指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	人生の最終章（看取り、終末期）における利用者様、家族の意思確認は、入居の契約締結時、入居後は、年に一度の意思確認を行っている。その時が来た際には、面談にて家族の意思を確認している。	入居時に看取り指針を基に家族・本人の意思確認をして同意書をもらい、その後は1年ごとに見直している。終末期を迎えて要望があれば医師と連携を取りながら、職員全員でできる限りの看取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に職員は、主治医の指示に従って動くようにしている。入居者一人ひとりの『急変時対応マニュアル』が、職員が見えやすい場所に設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、消防署立会いで1回、自主訓練1回実施している。	今年度は、5月に消防署立ち合いの避難訓練を実施し、11月には事業所独自で行い、その時の写真を事業所だよりにも載せている。防災頭巾・サーチライトや備蓄として乾パン・水を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した介護実践を行うことが出来るよう、努力している。	利用者の個性を尊重しながらも、集団の中で傷つけ合うことのないように配慮をしている。愛猫と一緒に居室で過ごす利用者がある。徘徊などの利用者の行動にも必ず理由があると考え、ゆっくりと本人の話を聞くことを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「お誕生日に何が食べたいか」「外出は、何処に行きたいか」「レクリエーションは、何がしたいか」等々、例を出したりして、利用者の思いを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが、自分のペースで暮らして頂けるよう心がけているが、業務におわれ、職員都合の介助にならないように、出来る限り心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時には、服装、髪の毛を整えるように介助している。また、利用者の様子を観て、常に着替え、身だしなみの介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、基本的に入居者全員方が一つの食卓を囲み、家庭的な雰囲気ですまじがって頂いている。が、心身の状況により、居室で食べている方もいる。食卓を拭く、後片付けをするなど、各自の出来る範囲で手伝ってもらっている。	職員が1週間分の食材を買い出しに行き、旬の物を使って調理している。誕生日には希望を聞き、みんなで手作りのケーキやおやつを作って祝っている。花見には手作りのお弁当を持っていき楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下機能に合った食事形態の食事を提供し、可能な限り自力摂取を促している。食事・水分摂取量は、食事・水分・服薬表に記録して、職員全員が把握出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的に食後の歯磨きをする人、口腔ケアの声かけ、誘導の必要な人、それぞれにあった、見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前、「お漏らしをしないか心配」と、トイレトーパーを居室に持ち帰る利用者がいた。本人の気持ちを受け止め、排泄後の後始末を本人と一緒にすることで安心され、トイレトーパーを持ち込む行為はなくなった。	寝たきりの2名の利用者を除き、その他は自立してトイレで排泄が出来ている。時間の流れや個人のパターンに沿ってトイレの声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療的に水分制限がある人以外は、十分な水分摂取、体操、歩行練習などで身体を動かして、排便を促している。また、必要に応じて、主治医の指示にて、服薬による便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、週に3回は入浴している。汚染や理美容の後なども、臨機応変に入浴して頂いている。	リフォームされた浴室で週3回の午前中の入浴が利用者の楽しみになっている。季節の柚子湯も楽しみの一つである。拒否があれば強制はせず、翌日に延期することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場、希望者に湯たんぽを準備するなど、一人ひとりあった支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指導に基づいて、服薬管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室で折り紙をする人、暖かくなれば、塗り絵をする人など、利用者様一人ひとりの特技や希望に沿った活動が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春のお花見、秋のコスモス鑑賞など、季節の外出をすることがある。自宅を見に行きたいという希望があれば、職員が同行して、自宅で用事をされることもある。	関連のグループホームの車を借りて、季節の花見に出かけている。家族の要望があれば、墓参りや自宅に帰ることも許可している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理できる利用者は、お小遣いを自分で管理されている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今まで通りの家族関係、友人・知人との関係が続くように、面会、外出、電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者が不快や混乱を招くことがないように配慮している。食卓には、季節の花を飾り、フロアの壁には、毎月の貼り絵などを掲示するなど、季節を感じて頂ける空間作りをしている。	玄関・廊下の壁には季節の飾りつけが所狭しと飾られ温かく楽しい雰囲気である。職員が調理をしながら見守りができるように対面キッチンに改装した。2階建ての2階部分は主に倉庫として使用し、1階だけを使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓を囲んで談笑をする人、洗濯物をたたむ人、テレビを観ている人など、同じホールで利用者一人ひとりの時間を過ごしている。職員はキッチンなどから、見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の愛用品を備えている。転倒、転落事故の防止に配慮しながら、本人の思いを尊重した居室のレイアウトをしている。	居室には、バット・エアコン・整理筆筒が整備され、その他の家具は自宅で愛用していた物を持ち込んでいる。沢山のぬいぐるみを飾っている部屋もあり、それぞれ個性のあるしつらえになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、迷わずトイレまでの矢印を貼るなど、利用者が迷わない工夫をしている。職員は利用者の見守りを行い、自由な行動と安全の確保に努めている。		